

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論 「まちあるき」から社会を考える
担当形態	単独	担当教員	鷲野 宏
ディプロマポリシーとの関連性	②, ③, ④		
テキスト			
開講時期	通年	単位数・授業形態	4 単位・演習
到達目標	・都市を観察するための様々な方法を修得できる。 ・都市という現象と社会との関係について客観的な考察ができる。 ・過去との対比で現代を読み解くことができる。 ・時代の変遷により変わるもの・変わらないものがあることを理解できる。 ・多様な価値観の存在や他者理解ができる。		
授業の概要	この各論では、江戸・東京の「まちあるき」を通して、都市という現象と社会との関係を考えます。都市に現れるデザインと時代との関係を探るためのいくつかの視点をもとにして、具体的な都市でのフィールドワークをおこない、両者の関係性を体感していきます。その体感をもとにグループワークによる議論・考察をおこない、思考をまとめながら意見を交換することを通じて、多様な価値観や他者の存在を踏まえたうえで、常に進行形である現代社会という状況について自ら考察し続けることのできる教養を得ることを目的とします。都市を鑑賞する感性を刺激するための普段とは異なる視点として、運河からの視点やサウンドスケープ（音の風景）という考え方もとりあげます。		
授業計画	第 01 回 オリエン：学園周辺のまちあるきで講座の概要を把握する 第 02 回 まちを観察するための基礎知識～建築史・都市史を概観する 第 03 回 FW：国家の中枢を観察する（東京駅丸の内駅舎周辺） 第 04 回 国家中枢エリアについての対話と考察及び情報整理技術「KJ 法」の紹介 第 05 回 FW：国家の中枢を観察する（旧江戸城から現在の官庁街霞ヶ関） 第 06 回 気づきの共有に基づく対話と考察及び情報の整理技術「認知地図の」紹介 第 07 回 FW：旧帝国議会議事堂貴族院と参議院議員会館 第 08 回 議事堂建築についての対話と考察（帝国と現代の価値観の大きな違い） 第 09 回 FW：バブル期の計画都市を観察する（幕張新都心） 第 10 回 バブル期についての対話と考察 第 11 回 前期の学修を通じたデザインと社会の関係についての対話 第 12 回 前期の振り返り：各自の学修の成果発表と対話 第 13 回 後期オリエン：前期の振り返りと後期の目論見づくり 第 14 回 FW：ニュータウンを観察する（おゆみ野ニュータウン） 第 15 回 ニュータウンについての対話と考察 第 16 回 FW：多様な界隈を歩く（渋谷～代官山） 第 17 回 FW：お祭りを観察する（代官山「猿楽祭」）		

	第 18 回 界限とお祭りについての対話と考察 第 19 回 FW:上野寛永寺の時の鐘の可聴範囲を歩く(上野～お茶の水) 第 20 回 時代の変遷で変わったもの変わらないものについての対話 第 21 回 FW:日本橋に架かる高架高速道路を考える(京橋～日本橋) 第 22 回 日本橋の高架高速道路についての対話と考察 第 23 回 学修の振り返り:各自の学修の成果発表と対話 第 24 回 学修の振り返り:デザインと社会の関係についての自由対話 注)FW:フィールドワーク				
準備学習と必要時間	まちあるき体験での気づきについて、次のワークショップで共有できる状態にしてくること。(必要時間:60 分以上)				
評価方法	・参加姿勢、発言内容 30% ・気づきの共有・議論・考察の内容 40% ・学修の成果発表(前期後期各 1 回)の内容及びレポート提出 30%				
参考文献	授業中に適宜示します。 鳥越けい子・鷺野宏・星憲一朗『触発するサウンドスケープ』岩波書店 2024 東京建築探偵団『建築探偵術入門』文春文庫 2014 赤瀬川原平ほか「路上観察学入門」筑摩書房 1993				
特記事項	(1)学外学習費用概算:交通費等 16,000 円程度(学園前駅から起算した場合) (2)フィールドワークは現地集合現地解散。交通費に加えチケット代・喫茶代等がかかる場合あり。 まちあるきの所要時間は1回 4 時間程度を想定。(上野の回は7時間程度) フィールドワークは休日に実施する場合あり。 座学・ワークショップは水曜日3限・4限で実施。 授業計画は社会状況や天気により臨機応変するので連絡網を設ける。				
課題へのフィードバック方法	議論にはコメントし、発表には講評をおこないます。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
実務経験のある教員等による授業内容					